

System z Technical Community

社内コミュニティー紹介



System z Technical Community (以下zTC)はSystem z技術者のスキルアップと若手育成の支援を目的とした組織横断型のコミュニティーとして2007年7月に活動を開始し、2014年で7年目に入りました。筆者は2012年から3代目のリーダーを拝命しており、登録メンバーはIBMグループ社員1,300名以上、ビジネスパートナー様15社120名以上の大所帯となっています(図1)。

ボランティアのコミュニティーのため運営メンバーも自主参加となっていますが、日本IBMテクニカルリーダーシップの宇田取締役執行役員に当活動のスポンサーとして参加いただいています。運営体制は、事務局・ボードメンバー・盛り上げ隊(インフラ整備・zTCメンバー支援)を中心に、年初に活動計画を立案し、各タスクの進捗は月次の定例会議で確認しています。また、ビジネスパートナー様との会議も四半期ごとに実施し、最新動向の情報提供やzTCへのご要望を伺うといった双

方向のコミュニケーションに努めています。

分科会活動

zTCの重要な活動として分科会活動があります。年初にテーマを数件確定し、メンバーを募集します。IBM社員とビジネスパートナー様と一緒に約半年をかけて成果物を作成し、活動の成果を全体会議の場で発表するというのが大きな流れです。各分科会にはアドバイザーがアサインされ技術面での支援を行います。2013年は次のような6件の分科会が立ち上がりました。

<2013年分科会テーマ>

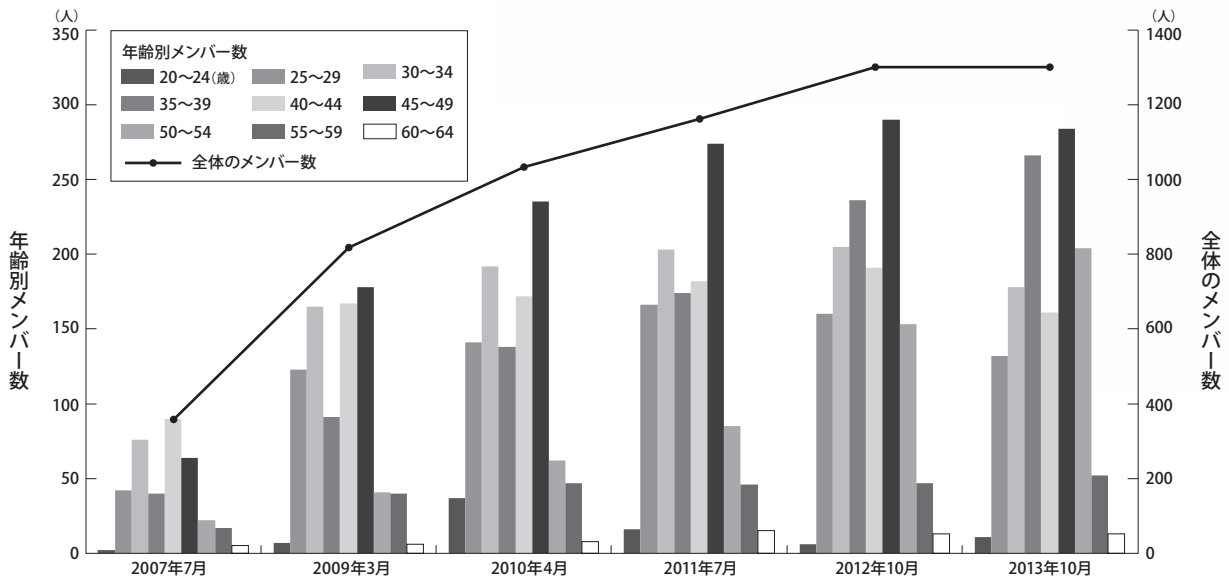
- ①zEnterprise Systemで実現するハイブリッド・コンピューティング
- ②z災害対策ソリューション検討会
- ③z/OS V2R1 移行の価値探求
- ④アプリケーション・モダナイゼーション分科会
- ⑤LEアプリケーション障害解析のコツ
- ⑥女子会z

2013年度の全体会議は11月に開催され、分科会の成果発表のほかに、エグゼクティブ・スピーチやゲスト・スピーチ、zTC貢献者への表彰を行いました。

これまでの分科会テーマはSystem zに関する技術的なものが主でしたが、2013年は新たな試みとして「女子会z」という女性限定の分科会を立ち上げました。ここではSystem z女性技術者がざっくばらんにディスカッションするところから始めてもらっています。男子禁制のため、私も初回の挨拶だけの参加でしたが、長期的なキャリアや育児との両立などをテーマとしたディスカッションや、先輩女性社員を迎えた座談会を通じて、「働く女性」の経験や悩みが共有されました。参加メンバーからも非常に好評なため、2014年も当分科会を継続していきます。

さらに2014年は、「z若手会」という35歳以下限定の分科会を立ち上げます。参加者には若手ならで

図1. zTC登録メンバーの推移と年齢別人員分布



はこの視点による価値訴求や提言を発信してもらえればと思っています。もちろんハイエンド・サーバーとして圧倒的な技術的優位性をもつ System zの価値を訴求したテーマは継続して取り上げていきます。

■ コミュニティーの今後

多くの方にご参加いただいている一方で、課題もあります。弊社に限った話ではありませんが、z技術者の高齢化は大きな問題となっています。参加メンバーの年齢層を毎年調査していますが、若手メンバーが減少傾向にある一方で40代後半に多くの技術者が集中しているのです(図1)。「メインフレームはレガシーで古い」というイメージが払拭しきれていないのかもしれません。

しかし、System zは常に進化しています。かつては3270端末(エミュレーター)でのオペレーションがほとんどでしたが、現在ではz/OS Management Facility (z/OSMF) という機能を使うこと

でブラウザー・ベースでの作業が可能ですし、Rational製品を使えばJavaの技術者がCOBOLアプリケーションを保守することも可能です。また、ハードウェア管理コンソール(HMC)の情報をスマートフォンでアクセスするアプリケーション[※]も提供されています。こういった機能やツールを検証し、広く知ってもらうこともzTCが果たす役割だと考えています。

近年ダウンサイジングやレガシー・マイグレーションといった「メインフレームのオープン化」が加速しています。しかしながら、IBMのメインフレームであるSystem zは他社のメインフレームとは一線を画しており、スケールアップ(垂直統合型)サーバーとして非常に堅牢で高信頼性、高可用性を備えたオープン基盤環境を提供することができます。また、CAMS (Cloud、Analytics、Mobile、Social) といった成長分野においても、複数サーバーを立てることなく、1台のSystem zサー

バーで効率的かつセキュアな運用が可能な先進的な製品です。「オープン化」のインフラとして、お客様にSystem zを選択肢としてご検討いただくためにzTCとして何ができるか、といった切り口での活動も必要だと考えています。

System z 50周年に当たる2014年、zTCもこの波に乗り、分科会活動に加えてワークショップや講演会といったイベントを企画する予定です。これからもコミュニティ活動を通じて社内外に有益な情報を発信し、System zのファンの増加、メンバーのスキルアップやスキルの継承に貢献してまいります。

※http://ibmremote.com/IBM_Mobile_Systems_Remote/Welcome.html (英語)



日本アイ・ビー・エム株式会社
ハイエンドシステム事業
テクニカル・ソリューション
モダンイゼーション推進 部長

山田 義昭
Yoshiaki Yamada